



広い土地を求めて北海道を回り 天塩で出会った負担が少ない居抜き物件

11年前まで、愛知県で酪農をしていましたが土地が狭かったため飼料は購入していました。経費的負担が大きかったこと、牛を放牧できる環境で酪農をしたいという思いがあり、土地が広い北海道に移住することを目標としました。農業改良普及センターの職員さんから情報を提供してもらい、蜂須賀さん自ら道内を数カ所視察して回りました。その結果、牛も施設も揃った居抜き物件が天塩町で見つかり、平成13年に移住することができました。北海道で酪農をしたいと考えている人は少ないのですが、土地があるだけだったり牛がいなかったりと経済的負担の高い物件が多く、移住に踏み切れなかったという話をよく耳にします。私のように居抜き物件が見つかるケースは少なく、本当に運が良かったと思っています。



後継牛を肥育するのも酪農家の大切な仕事

牛に負担をかけずに 自然のリズムで営む酪農

酪農の仕事は朝4時過ぎの牛舎の清掃から始まります。えさやりや搾乳を済ませてから放牧し、夕方にまた同じような作業を繰り返します。現在搾乳できる親牛55頭に育成牛35頭を飼育しています。牛に負担をかけないよう余裕を持った乳量に抑え、自給飼料の牧草も除草剤などの農業は一切使わず育てています。現在、天塩町の新規就農者は私を入れて5軒ほどですが、地元の方で離農してゆく酪農家が多いのも現実です。牛の世話は毎日休めないので大変だと思われがちですが日中は自由な時間があり、酪農ヘルパーを活用すれば家族旅行も可能です。特に冬は外仕事がないため自由な時間が多く、子供が小さい頃スキー少年団に入っていたこともあり、スキーが冬の楽しみになっています。市街地には一通りのものが揃っているし、近くに大きな都市もあるので不便を感じることは特になく、天塩町の暮らしを十分満足しています。



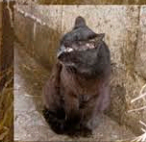
蜂須賀さん夫婦が毎日清掃する牛舎内はきれいで、食べ物を生産している誇りを感じる

[天塩町からの一言]天塩町では農協をはじめ関係機関と連携をとりながら就農、就農後のサポートをいたします。また、就農に関する各種支援事業もごございますのでお気軽にご相談ください。

蜂須賀俊光さん Toshimitsu Hatusuka

愛知県出身の酪農家。夫婦で酪農経営を続けながら馬やネコも飼育している。夏は溪流釣り、冬はスキーと、北海道の四季を堪能している。

● 移住地／天塩町
(愛知県出身)



放牧と自給飼料で酪農をするため 広大な北海道を移住地に決めました。

牛も設備も揃う居抜き物件を利用したリレー方式で個人負担を最小限に実現した北海道移住。